



2026年2月9日

各 位

会 社 名 株式会社京都きもの友禅ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 浅香 竜也
(コード番号 7615 東証スタンダード)
問合せ先 経営管理部長 渡部 真由
(TEL. 03-3639-9191)

業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2025年5月13日に公表した2026年3月期の通期連結業績予想及び配当予想につきまして、下記の通り修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2026年3月期通期連結業績予想数値の修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 5,909	百万円 66	百万円 50	百万円 34	円 銭 2.47
今回修正予想(B)	5,946	205	203	183	11.11
増減額(B-A)	37	139	153	149	
増減率(%)	0.6	211.1	306.4	438.1	
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	5,161	△734	△747	△923	△74.30

修正の理由

当社グループでは、連続した赤字体質から脱却するため「黒字化の実現」を最優先の経営課題と位置付け、2025年3月期より抜本的な経営体質の改善に取り組んでまいりました。

2025年3月期に、抜本的な構造改革のためのプロジェクトを複数発足し、施策の実行と検証を重ね運用してまいりました。2026年3月期は各種プロジェクトの運用を継続した結果、期初から安定した受注確保につながり、また、前期より推進しているコスト構造の見直しも期初より効果を発現し、和装事業全体の構造改革が着実に実現されつつある状況です。また、当社は2026年3月期上半期において、2018年3月期以来となる第1、第2四半期連続の営業黒字を達成しており、施策効果が早期から業績に顕在化しております。

当第3四半期連結累計期間の結果を踏まえ、第4四半期以降も引き続き受注高の確保、売上原価の適正化、費用の効率化が継続される見込みであることから、通期における売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、いずれも当初計画を上回る見込みであります。

なお、2024年11月14日に開示した2027年3月期の計画値については、現在精査の段階であり、現時点において変更はありません。今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2024年11月14日に開示した今後の見通し (単位：百万円)

	2025年3月期 業績予想	2026年3月期 計画	2027年3月期 計画
売上高	5,492	5,909	5,909
営業利益	△672	66	94

2. 配当予想の修正について

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回予想	0円00銭	0円00銭	0円00銭
今回修正予想	—	未定	未定
当期実績	0円00銭		
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	0円00銭	0円00銭	0円00銭

修正の理由

当社は、財務体質の健全性および将来の成長投資とのバランスを重視しつつ、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つとして位置付けております。

2026年3月期の配当金につきましては、前回予想において無配としておりましたが、上記の業績見通しを踏まえ、2026年2月9日開催の取締役会において、配当を実施する方針を決議いたしました。一方で、期末配当の具体的な金額につきましては、期末時点の業績および財務状況、今後の成長投資の状況等を総合的に勘案したうえで決定する予定であることから、配当予想を未定としております。なお、期末の業績確定後、財務状況等を踏まえて金額を決定のうえ、速やかにお知らせいたします。

当社は引き続き、本経営改革の成果を一過性にとどめることなく、再現可能な収益基盤として組織に定着させてまいります。通期計画の確実な達成を通過点として、お客様に心に残る価値を届け続ける企業であることを忘れず、持続的な企業価値の向上と安定的な財務基盤の構築に向け、すべてのステークホルダーの皆様とともに全社一丸となって取り組んでまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(注) 上記の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上